

# 会員だより

### 一生に一度 願いを聞いてくださる神に 初詣

令和2年の元日を迎え、初詣に行つて来ました。

例年どこかを探してお参りしていますが、今年は近場でも、しかもタクシーでの参拝です。同じホームの友人3名と出かけました。風もなく比較的穏やかな元旦でした。行く先は四天王寺の近くの堀越神社です。

谷町筋で前はよく通るのですが、お参りしたことがありません。



堀越神社の御由緒

鳥居をくぐつてすぐ本殿で何人かの参拝客がお参りしています。いつもなら初詣は大抵少なくても2〜300人並んで順番を待つのに今日は行列はありません。ご祭神は第32代崇峻天皇と、小手姫皇后(おでひめこうごう) 蜂子

皇子(はちのこのみこ) 錦代皇女(にしきてのひめみこ)で天皇の甥にあたる聖徳太子が四天王寺建立と同時に創建されたとのことです。

明治中期まで境内の南沿いに美しい堀があったので、これを渡つて参詣していたことからこの名がついたとか。境内には

- 一、熊野第一王子之宮
- ① 熊野詣の出发点
- 一、太上神仙鎮宅靈符尊神
- ① 中国から伝わったものでお守りやお札の出来る元となった神
- ② ちんたくさん、家宅を鎮める神
- 一、ご神木

- ① 堀越神社は名高いパワースポットだそうで、ご神木は樹齢300年の楠
- ② 友人3人が手をつないで囲んだところ丁度3人で手をつなぐことが出来ました。



3人の手がつなげた！！

一、茶臼山稲荷神社  
神社は、茶臼山山頂にあつたが大坂の陣で徳川家康が

真田幸村の攻撃に会つた時、神社の使いの白狐が家康を助けたといわれその後、徳川家の庇護を受けたそうで、大阪人にはうれしくない話です。



茶臼山稲荷神社

またこの神社には「ひと夢祈願」というのがあって、一生に一度の願いを聞いてくださるのだそうです



ひと夢祈願 由緒説明版

ご祈禱を受けたお守りを体に付けていると必ず願いが叶うのだそうです。神仏にはお願い事はしないと決めている私ですが、一生に一度願いが聞いてもらえるのなら、そんな願望が出来るまで待つておこうと思いました。

また境内には「かえる石」というのがあって、黒い大きな石が蛙の形をしています。いわれはよくわかりませんが、お水をかけてお賽銭を上げてきました。



念じながらかえる石に触れると「失ったものがカエル」

おみくじは「吉」「枯木逢春艶」「こぼくしゅんしゅにおうて」ふゆがれの木もはるにおうて みどりをふくむなりと。



おみくじを買う筆者

このみくじにあたる人は、思わぬ方よりたすけを得て仕合せよし。えんだん、よろこびごとよろずよし。と希望のある卦でした。めでたしめたし。

記・写真：牧戸富美子

## 「赤大路」地名の由来

鴨神社は、赤大路町に有り赤大路には子安八幡宮も有ります。



「子安天満宮」の拝殿に掲示している由緒版

子安天満宮は菅原道真公の側室、其の子及び菅原道真公を祀つてある。

社伝によれば醍醐の延喜元年公の太宰府に左遷の時、側室が臨月であつたが、別れを惜しみ公の後を慕つてこの当地を過ぎる時に、俄に産氣を催したが人家による隙もなく興中に生まれ、侍者倉皇興を担いで民家に入ったが、流血は興中より洩れ道路が赤く染まったので、「赤大路」の地名が起こつた。

同側室は産後の経過が悪くついに当地にて死去された。その死期に臨み、里人の介抱を深く感謝し死後は婦人安産の神たらんと誓われたので村人が社殿を建立し祀つたのが当社の創建と伝えられている。

記・写真：大岡成一

## 四季彩

### イヌホウズキ

(犬鬼灯、犬酸漿)

よく「犬」とつく言葉があるが、似ていても役に立たないの意味が多く、犬食い、犬死、犬待…などあるが、「否(いな)」の意味でもある。イヌホウズキは、別名「バカナス」と呼ばれる。

花はナスに似ているがそれに非ず、ホウズキよりむしろジャガイモの花に似ている。そのはず、ナス科。小さな実はホウズキの袋の中にある実に似ていないこともないが、熟すと赤くならず、黒くなる。近所の藪の植物は年ごとに変わっていく、2019年はこのイヌホウズキが全盛、今までノイバラだったり、ムラサキつゆ草だったり、自然は面白い。



イヌホウズキの花

記・写真：上村サト子